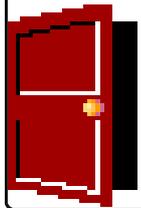


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



# 読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和4年6月27日 文責 渡邊

子供時代に思い返して、印象に残っている本ってなんだろうとふと思ったものは、私は「図鑑」でした。人類がどのようにして誕生して、古代の生物や生活、絵や図から興味を持ち、それから文を読むというものでした。幼いながらも「ロマン」を感じていたのだと思います。あのわくわく感は大人になっても続いています。

(6年生保護者)

6年生の保護者の方からいただいた意見です。「あのわくわく感は大人になっても続いています。」のフレーズがとても素敵です。図鑑ならではの楽しみ方ではないでしょうか。さて、今回は、「もっと楽しくなる本の読みかた『図鑑編』」を紹介いたします。写真家の今森光彦さんが次のような文章を寄せています。

みなさんは、図鑑にどのようなイメージをお持ちでしょうか？もしかしたら、さまざまなものがきれいに分類されて並んでいる本と思うかもしれません。

でも、そうとは限りませんよ。ぼくが子供の頃好きだった図鑑には、事実だけではなく、作者自身の想いや感じたこともたくさん書いてありました。また、作者が自分の専門以外のことにも詳しくて、1冊にいろいろな知識が盛り込まれていたのを思い出します。ぼくはそれをまるで物語を読むような気持ちで楽しんでいました。それらの本はいまもぼくのお手本で、本をつくる時はぼくもそのようなものにしたいなあと思って取り組んでいます。みなさんも、そんな気持ちで図鑑を開いてみてはどうでしょうか。

さて、ここからは図鑑をもっと楽しめるようになるための自然への目の向け方についてアドバイスしたいと思います。

みなさんが生きものの図鑑に関心があるならば、できれば実際に生きたものを見に行ってみてほしいと思います。近所の公園など、身近なところにもいろいろな発見があるはずですよ。ぼくも普段は、滋賀県の琵琶湖の近くのせまいエリアで自然を観察していますが、そこにも多様な生き物がいて、研究には終わりがありません。(中略)

最後になりますが、図鑑は、学校の授業では学びきれないことを知ることができる窓口になると思います。ですから、図鑑をきっかけにいろんな知識に触れ、ぜひ外に出かけてみてください。そして外で未知のものに出会ったら、また、図鑑を開いてみてください。そうしているうちに、自然に関する知識を得られるだけでなく、生きものどうしの関係性がわかるようになってきます。

ぼくがいちばん伝えたいことは、なにより楽しむことを大切にしてほしいということです。ぼくは、図鑑を読んだり、野外で生きものに触れたりする体験を通じて、みなさんのなかに「感性の栄養」が育っていくと思っています。体験というのは豊かな土壌のようにみなさんに蓄積していきますから、安心していてください。

体験することの大切さが今森氏の文章から伝わってきました。体験活動と「図鑑」を開くことをつなぐことで「感性」が豊かに育まれていくのでしょうか。裏面では、保護者の皆様方から寄せられた意見や感想を紹介いたします。

## 【保護者の皆様からの声】

今回のお便りを読んで、黙読はもちろんですが、音読の機会を増やすのが、作者の気持ちを読み取ったり、表現力を身に付けたりするのに、より一層役立つのではないかと感じました。他の人の音読を聞くのも参考になりますね。(4年生保護者)

今回のお便りを読んで、昨年度の夏休みの課題として、読書感想文に取り組んだ際、敵との戦いの勝敗という事実だけで終わるのではなく、なぜ勝てたのか、なぜ負けたのか、どうすればよかったのか…など、より考えを深めるよい機会となり、その時の子供の発想に母は驚き、感心したことや、文章で表現されている登場人物の風貌を、お互いどう感じたのかを言い合ったところ、思い描く姿が違っていただけにおもしろさを感じたことを思い出しました。一緒にではなくても、同じ本を読み、お互いに感想を言い合うことでも、自分の思いや考えを改めて認識し、整理して相手に伝えたり、自分以外の視点での考え方を知って、新たな気づきにつながるのではないかと思います。また、挿絵が少ない方が、視覚から先に入ることなく、想像力が広がり、絵本とはまた違うおもしろさがあるように思います。(4年生保護者)

親は子の鏡といいますが、私自身も両親をモデルに大きくなったと感じています。行動や金銭感覚、考え方などに影響を受けています。世界はめまぐるしく変わっていますが、たくさん本を読んで、歴史に学んで欲しいという親心…。しかし、自分で勉強してこなかったことを反省しつつ、やはり親子での読書が必要であると改めて感じています。(1年生保護者)

家庭での大人の会話や口癖を、子供が同じように言っているときにドキッとすることがよくあります。特に、イライラした時に発している言葉を子供も発しているときです。優しい言葉遣いをして欲しいと願っていても、日頃、聞いている言葉遣いが身に付くのは当たり前ですね。自分自身の反省すべき点です。(5年生保護者)

時代の変化とともに、私たち人間も変わっていかねばいけないのかも知れないなあと改めて感じました。住み慣れたこの環境の中で、ほとんどの人が変化を嫌うし変えていくということはある種のストレスになるのではないかと思います。しかし、自分で考えることを止めてしまえば、自主性がなくなり、自分を律したり守ったりする力も弱くなってしまいます。私は、漫画を読むことは悪いことだとは思いません。漫画から学べることもあるし、文字離れしつつある現代人にとって、まずは簡単などころから入れる手段でもあると思います。子供たちだけでなく、『読書活動への扉を開く』を読んだ保護者の方々にも、読書に興味を持ってもらえたら嬉しいです。(3年生保護者)

多くの声を寄せていただきありがとうございます。これからもよろしくお願いします。